



そなえよつねに
ボーイスカウト



人と
地球に
よりよい
未来を



SCOUTING JAPAN

団体案内



公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

人と地球によりよい未来を

ボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる
世界最大級の青少年教育運動です。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



“人”のために、よりよい未来をつくる

ボーイスカウトは、すべての人にひらかれている歴史のある安心・安全な運動です。

そのようなプラットフォームを生かして、社会に出てから役立つ力と心を育てていきます。

社会に貢献する活動を通じて、人々の役に立ち、未来を担っていく人を育て社会に送り出します。

“地球”のために、よりよい未来をつくる

日本のみならず、世界各地で活動する仲間ができます。

野外活動をととして自然と触れ合い、地球を感じながら多くのことを学ぶ機会があります。

学んだことを生かして、SDGsなどの地球の未来を考えたプログラムを展開しています。



ボーイスカウト活動の特徴

ボーイスカウトは、1907年にイギリスで
な活動によって、自らの健康を築き、社会

世界で
118
176
の国と地域で

年前に始まり

6,000万人が、
世界で参画



1 体験から学ぶ活動で あること

子どもたちは直接体験したことによって成長していきます。知識や技能を自分のものにしていくには、実際にやってみることが大切です。体験と学びを積み重ねていくことで、将来の人生や社会の中で自ら積極的に行動できるようになります。



はじまり今では世界の176の国と地域、6,000万人以上が加盟する世界最大級の青少年教育運動です。子どもたちの自発的に貢献できる能力と人生に役立つ技能を得ることを目指しています。また、スカウト活動には世界共通の教育的特徴があります。



2 自発的な活動で
あること

自分たちがやりたいことを考え、実行することで、困難を乗り越え達成感を得て自信をつけていきます。研修を受けた指導者が、子どもたちの成長を願ってさまざまな体験の機会をサポートします。



3 異年齢が集う小グループ
で活動すること

ボーイスカウトの活動には同世代のみならず、年上や年下、大人たちも含め幅広い世代が参画しています。子どもたちの活動では小さなグループで切磋琢磨し、互いに教え合い、協調性やリーダーシップを育む環境があります。



4 個性を伸ばすことが
できる豊富な選択肢

誰にでも活躍・学びの機会があり、子どもたちそれぞれの興味と好奇心を引き立てる選択肢があります。挑戦項目をクリアするともらえる「バッジ」が日本では約120種類あり、子どもたちそれぞれの学びをサポートしています。



イラストはイメージです。

日本
で 103
年前に始まり

47
都道府県で

78,000人
が国内で活動

※2025年3月31日時点

ボーイスカウト活動は、“人”のために、より

☑ 社会に出て役立つ力と心を養い、人を育てます

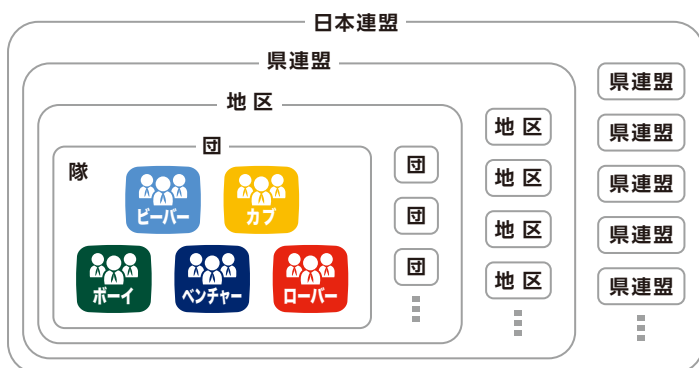
年齢に応じて、成長段階を考慮した5つの部門で活動を展開しています。男女問わず、全国各地で活動中です。

■ ボーイスカウト運動の組織と構成

それぞれの地域で活動しているボーイスカウトのグループを「団」と呼びます。例えば、「東京第1団」のように各グループを識別することができます。全国にはおよそ1,700か所に団があり、地域に根差した活動を行っています。

団の中で、子どもたちは年齢ごとにさらにグループに分かれており、これを「隊」と呼びます。小学1～2年生はビーバースカウト隊、3～5年生はカブスカウト隊といったかたちです。普段は隊ごとの活動が基本となっています。

現在、47都道府県にそれぞれ「県連盟」があり、県内の団を取りまとめています。比較的人数が多い県では地区に分かれて運営しているところもあります。



遊びに学びを！

ワクワクに

小学1～2年生

小学3～

Beaver
Scout

ビーバー
スカウト

Cub
Scout

カブ
スカウト



遊びから体験し、学

冒険し、

スカウト活動で
できること



☑ すべての人にひらかれた、安心安全な運動です

■ 研修を受けた指導者が子どもたちの成長を支援します

全国約3万1,000人の指導者が、ボランティアとして活動を支援しています。職業や年齢、経験などはさまざまです。指導者は、活動や安全管理などの研修を受け、これを受講した人だけが指導者として活動することができます。

■ ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン (DEI推進)

さまざまな背景をもつ子どもたちが参加し、相互に尊重しあうとともに、活動の中でそれぞれの個性や能力を活かしていきます。



よい未来をつくります。

学びを！	冒険に学びを！	学びを挑戦へ！	熱意を社会へ！
5年生	小学6～中学3年生	中学3年生～18歳	18歳～26歳
 Boy Scout ボーイ スカウト	 Boy Scout ボーイ スカウト	 Venture Scout ベンチャー スカウト	 Rover Scout ローバー スカウト
			
ぼう	チャレンジし、学ぼう		
	社会の役に立つ体験をしよう		
	社会の一員として自立心を育もう		
	広がる国際交流の機会に参加しよう		

社会で役立つ人材に

☑ 他の人の役に立ち、社会に貢献する運動です

ボーイスカウトは、いつも他の人々の役に立つことを目指しています。人の役に立った経験・学びは、未来の自分を支え、さらに大きな社会貢献につながります。

成功や失敗から
学ぶ楽しみを

教育
支援



「ワクワク自然体験あそび」などの自然の中での体験活動を提供しています。

だれかを笑顔に
する喜びを

地域
福祉



地域と連携しながら活動しています。地域の方々・施設への支援も行います。

豊かな自然に
感謝を

環境
保全



未来の地域のための植樹など、環境保全活動と啓蒙活動を実施しています。

いざという時に
行動できる勇気を

災害
支援



災害に備える防災キャラバン、支援ボランティア、募金活動などを行います。

育てよう、生きる力と生きる力

ここでしか学べないスキルと体験から、リーダーシップを育みます。

「やりたい」を叶え、 主体性を身につけます

自分で考え、自分で決めたことを自分で進められるようになります。



「協調性」を育み 自分たちで解決します

相手の気持ちを思いやり、お互いに助け合います。

「自己肯定感」を 高めます

自信を持って、ものごとに積極的に取り組めるようになります。



ソーシャル
スキル

リーダー
シップ

エモーショナル
スキル

ボーイスカウト活動は、“地球“のために、

✓ 野外活動で地球に寄りそい、 多くのことを学ぶ機会があります

同年代の仲間と自然の中で活動することによって、リーダーシップ、協調性、社会性などを活動で体感し、身に付けます。不便なことも多い野外の中で、快適に過ごすために自分の役割を見つけ、他の人の役に立つことの大切さを学びます。



／ 知っていますか？ ／

体験格差

日本の子どもたちの6人に1人が相対的な貧困状態にあるといわれています。経済的に厳しい家庭の子どもの3人に1人は、学校以外での体験機会がないという体験の貧困「体験格差」も生じています。子どもたちにとって家でも学校でもない第三の居場所で友だちと過ごし、親以外の大人と関わることができる居場所は大切であり、ボーイスカウトは100年以上もその役割を担ってきました。



世代をこえた 仲間との関わりが あります

学校以外の友だちがたくさんで、さまざまな人との関わりを得ることができます。

自立して、自分のことは 自分でやります

子どもたちは自分で色々なことができるようになり、しっかりと自立をしていきます。



万一のための サバイバルスキル

万一の災害時にも助けとなるスキル、心を身につけます。



ライフ
スキル

よりよい未来をつくれます。

✓ 地球の未来を考え、SDGsにも取り組んでいます

■ スカウトの日

出動！キラまち隊！～人と地球によりよい未来を～

「日日の善行」の一環として、全国のスカウト・指導者が奉仕活動として環境美化・保全活動をはじめとする社会貢献活動を全国一斉に取り組んでいます。



■ 難民支援衣料回収プロジェクト

ユニクロとUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と連携して、現在までに全国からおよそ15万着の衣料を回収しました。ユニクロ店舗を通して、難民キャンプにお届けしています。



ボーイスカウト日本連盟

創立

大正11年4月13日

法人許可日

昭和10年7月1日(財団法人)

公益財団法人認定

平成22年4月1日

目的

世界スカウト機構憲章に基づき、日本におけるボーイスカウト運動を普及し、その運動を通じて青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図り、青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

事業

- ① ボーイスカウト運動の普及及び広報
- ② ボーイスカウト運動の教育計画の策定及び運営
- ③ 指導者の養成
- ④ 国際相互理解の促進及び国際協力
- ⑤ 地球環境の保全・保護及びその教育
- ⑥ ボーイスカウト教育の特長を活かした自然体験活動等の推進
- ⑦ 教育に必要な施設の提供
- ⑧ 集会及び講演会の開催
- ⑨ 図書、雑誌等の刊行並びに電子媒体による情報の発信及び受信
- ⑩ 教育に必要な用品の調製及び供給
- ⑪ 安全普及啓発活動と共済制度の運用
- ⑫ その他目的達成のため必要な事業



2018年、第17回日本スカウトジャンボリーにご来臨。第7回大会より欠かさずお越しになられ、スカウトにおこたを賜ってきた。

日本連盟の施設

スカウト会館／ スカウトライブラリー

2018年に東京・文京区本郷より移転。貴重な書籍等の閲覧が可能なスカウトライブラリー(金・土・日の午後のみ開館)のほか、会議室を有する事務所。



〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

TEL 03-6913-6262

HP <https://www.scout.or.jp>

那須野営場

1950年の設置以降、多くの指導者訓練を開設してきた約1万6,000坪の野営場。かつての山中野営場に続く指導者訓練の中心地として現在に至る。



〒329-2756 栃木県那須塩原市西三島7-334

TEL 0287-36-0708

やまと 大和の森

高萩スカウトフィールド

大和ハウス工業株式会社より寄贈を受け、2017年にグランドオープンした約82万坪の広大な野営場。指導者訓練のほか、地域社会と共生する施設として各種事業を展開。



〒318-0104 茨城県高萩市中戸川字菖蒲尻412

TEL 0293-44-3551

■ ボーイスカウト運動発展のため 皆様の財政的なご支援をお願いいたします。

ボーイスカウトの普段の活動は全国のボランティアによって成り立っておりますが、運動を維持するためにはご寄付によるご協力が不可欠です。ボーイスカウト活動の財政基盤は、加盟員の登録料、活動に必要な用品の売上、そして皆様からのご寄付の三本柱により構成されています。皆様におかれましては、本運動の趣旨をご理解賜り、ご寄付をお願い申し上げます。



■ 継続したご寄付による会員

ボーイスカウト日本連盟では継続したご寄付により財政的に本連盟を支えていただいている皆様を「維持会員」と呼びしています。維持会員は個人、法人の会員があり、クレジットカードによる月々のマンスリー寄付などでも受付けています。法人会員は年額10万円でご協力をお願いしています。ぜひ私たちの仲間、会員になっていただきますようお願い申し上げます。



■ ご寄付の方法について 維持会費・ご寄付などの振込は以下の金融機関をご利用ください。

1. 振替用紙をご利用の場合

お問い合わせください。手数料が無料となります。

00130-1-56119

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

2. 銀行振込をご利用の場合※

三菱UFJ銀行 春日町支店(普) 0383873

みずほ銀行 本郷支店(普) 2855005

口座名は、いずれも(ザイ) ボーイスカウトニッポンレンメイです。

※恐れ入りますが、振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。また、お手数ですが維持会員への申込書の送付をお願いしております。申込書は以下よりダウンロードが可能です。





歴史的な実験キャンプ

1907年、創始者ロバート・ベーデン-パウエル卿がイギリスのブラウンシー島に20人の少年たちを集めて実験キャンプを行いました。これがボーイスカウト運動の始まりです。



1921年、イギリスのボーイスカウトの大集会における昭和天皇（当時、皇太子）

創始者

ロバート・ベーデン-パウエル卿
(1857-1941)



ボーイスカウト運動の歩み

ボーイスカウトは、イギリスでロバート・ベーデン-パウエル卿（以下、B-P）によって1907年に始まった運動です。かねてから少年たちの教育に大きな関心を寄せていたB-Pは、少年たちがさまざまな野外教育を通じて男らしさを身につけ、将来社会に役立つ人間に成長することを願い、インドや南アフリカでの自身の体験をもとに、イギリスのブラウンシー島で20人の子どもたちと実験キャンプを行いました。

翌年、『スカウティング・フォア・ボーイズ』という本を著し、キャンプ生活や自然観察、グループでのゲームなどで少年たちの旺盛な冒険心や好奇心を発揮させ、「遊び」をとおして少年たちにリーダーシップを身につけさせようとしてしました。この本がベストセラーになり、それがきっかけでこの運動が世界に広がりました。

日本には1908（明治41）年に伝播し、全国各地でさまざまな少年団が数多く作られました。その後、全国的な統一結成の動きや昭和天皇からの後押しなどがあり、1922（大正11）年4月13日に現在のボーイスカウト日本連盟の前身である「少年団日本連盟」が創立され、ボーイスカウト国際事務局に正式加盟し、世界の仲間入りを果たしました。

日本における主な出来事

- 1922（大正11） 少年団日本連盟設立 総裁 後藤新平、理事長 二荒芳徳
- 1935（昭和10） 法人格を取得し、財団法人大日本少年団連盟に名称変更
- 1941（昭和16） 政府方針により、大日本少年団連盟は、他の青少年団体とともに大日本青少年団に統合
- 1947（昭和22） ボーイスカウト日本連盟臨時中央理事会設立（戦後再建）
- 1949（昭和24） 財団法人ボーイスカウト日本連盟として再発足
- 1956（昭和31） 第1回日本ジャンボリー開催（長野県軽井沢）
- 1970（昭和45） ボーイスカウト会館設立（東京都三鷹市）
- 1971（昭和46） 第13回世界ジャンボリー開催（静岡県朝霧高原）
- 1972（昭和47） 日本連盟結成50周年記念事業（明治神宮会館で開催した中央式典に昭和天皇ご臨席）
- 1973（昭和48） 財団法人ボーイスカウト日本連盟に組織を一体化、試験研究法人指定

第1回日本アグーナリー（国際障がいスカウトキャンプ大会）開催（愛知県青少年公園）
- 1982（昭和57） ボーイスカウト運動創立75周年

ボーイスカウト日本連盟創立60周年記念事業
- 1986（昭和61） ビーバースカウト部門発足
- 1995（平成7） 全部門への女子の加入を認める
- 1997（平成9） ボーイスカウト日本連盟創立75周年中央式典開催（東京都日比谷公会堂）
- 2007（平成19） 世界スカウト運動創始100周年記念事業を実施
- 2010（平成22） 財団法人から公益財団法人に移行
- 2011（平成23） ボーイスカウト会館移転（東京都文京区）
- 2012（平成24） ボーイスカウト日本連盟創立90周年事業を実施
- 2015（平成27） 第23回世界スカウトジャンボリー開催（山口県阿知須きらら浜）
- 2018（平成30） スカウト会館移転（東京都杉並区）
- 2022（令和4） ボーイスカウト日本連盟創立100周年事業を実施



www.scout.or.jp